



「おへそ」はおなかの^{なか}中でどうなっているの

「おへそ」は「へそのお」のとれたあと

「おへそ」は、^{あか}赤ちゃんのときの、「へそのお」のとれたあとです。

へそのおは、^{あか}赤ちゃんが、^{かあ}お母さんのおなかの^{なか}中にいたときには、おなかの^{なか}中のたいばんにつながってました。へそのおの^{どうみやく}動脈を通して、^{あか}赤ちゃんの^{ひつよう}必要な^{えいよう}栄養や^{さん}酸素は、^{かあ}お母さんから送られ、いらなくなったものは、へそのおの^{じょうみやく}静脈を通して^す捨てられていたのです。「へそのお」は、^{あか}赤ちゃんの^{いのち}命づなだったといえるのです。

^{あか}赤ちゃんは、^う生まれたあとは、^{ちち}乳を^の飲むので、^{ひつよう}ひものようなへそのおは必要がなくなり、^{しぜん}自然に^き切りはなされます。そのため、^う生まれたばかりの^{あか}赤ちゃんのおへそは、^だとび出して^{います}います。

そして、^{どうみやく}動脈や^{じょうみやく}静脈など、へそのおの^{なか}中を^{とう}通っていた、^{けっかん}血管の^{さき}先などは^{ちぢ}縮んでしまい、^{うえ}その上を^ひうすい皮^ふが^おおって^{しま}います。そのため、おへそはおなかの^{なか}中では、^{ふく}腹まくという、^{ないぞう}内臓を^{つつ}包んでいるまくにつながっているだけです。

^{あか}赤ちゃんが^{せいちょう}成長するにつれて、おへそのまわりにも^{にく}肉がつき、おへそのまわりの^{ぶぶん}部分も^{はついく}発育して^{いき}ますが、^{やくめ}役目の^すすんだおへそは、もう^{はついく}発育しないばかりか、おなかの^{うちがわ}内側から、^{とう}通まくに^ひ引っ張られているので、^ひだんだん^ひ引っこんで^{いき}ます。

おすもうさんや、^{ふと}太った人の^{ひと}おへそが、^{ふか}深くへ^ひこんでいるのは、おへそのまわりの^ひ皮^ふの下に、^{した}しぼうが^{たま}たまって、^{ふか}しぼうをもたないおへそが、^{ふか}いっそう^{ふか}深くなってしまうからです。（監修・保志 宏）

